

テーマ:住民主体のまちづくり / 対象:中学生 / 主催:古田公民館

2-3

このまちにくらしたいプロジェクト

地域を学ぶ	●	地域でつながる	●	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 5 月 28 日 (日)	古田公民館, アルパーク	オリエンテーション, 冒険あそび場 PR
6 月 11 日 (日)	古江西町公園	第 1 回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
7 月 23 日 (日)	広島市中央公園	冒険あそび場体験実習①
8 月 20 日 (日)	古江西町公園	第 2 回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
9 月 24 日 (日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ①
11 月 5 日 (日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ②
11 月 26 日 (日)	広島市中央公園	冒険あそび場体験実習②
12 月 17 日 (日)	古江西町公園	第 3 回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
2 月 4 日 (日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ③
3 月 4 日 (日)	古江西町公園	第 4 回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催



対象	園児, 小学生, 中学生, 高校生, 大人 延べ 615 人
経費	53,347 円 (内訳: 報償費 25,000 円・需用費 28,347 円)
連携先	多世代寺子屋ネットワーク, もとまち自遊ひろば「ゆうえん隊」, 古江西町町内会, 古江女性会, 古田学区子供会

問
合
せ
先

広島市古田公民館

広島市西区古江西町 19-15

電話 082-272-9001

ファクシミリ 082-272-9001

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 少子高齢社会，人口減少社会等を見据え，中学生を主体に地域住民など多世代が連携し，地域課題に対応するまちづくり活動に取り組む。
- これらの学習や活動を通して，社会に主体的に関わり，行動する人材を育む。

3 学習目標

- プロジェクトをよりよくするためのアイデアを出し合い，企画・運営することができる
- 地域への愛着をもつと共に，自分にできることを実践しようとする意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 意見を出し合う場の設定や雰囲気大切に，互いの意見を尊重するようにする。
- 記録（写真・アンケート等）を残し，改善につなげていく。
- 来場する保護者には，子供の活動を見守るようにお願いして，なるべく支援をしないようにしてもらう。

5 留意点

- 中学生以外にも，参加する高校生や大学生がゲスト的な立ち位置にならないよう，それぞれに遊びの企画をつくる課題提案を依頼し，自発的な意識づけを促す。
- 持続可能な取組にしていくために，事務的な手続きも徐々に連携団体に引き継ぎをしていく。

6 成果

- プロジェクトが開始してこの5年間に整備・蓄積してきた運営ノウハウを生かし，イベント実施回数を前年比倍増の年4回行うことができた。また，近隣の郵便局等で活動を紹介する写真展も実施するなど，住民向けの広報も積極展開している。これらにより，冒険あそび場の認知度は一層高まり，地域団体や住民等の支援や協力も充実しつつある。
- 中区基町で行われている「もとまち自遊ひろば」との交流活動の中から，SNSを活用した冒険あそび場づくりのネットワーク「つくるあそび場ねっとひろしま」が発足し，他地域の活動団体との情報交換や交流の場が生まれた。
　　《アンケート結果》
 - 満足したと答えた来場者 93%。
 - イベント参加体験後，地域の公園に対する考え方が変容した人 85%。

7 課題

- 募集時に中学1年生の参加が少なく，学年の偏りがあることから，次年度の世代交代時の影響が懸念されるため，募集方法の工夫が必要である。
- 予算の確保を助成金に依存しているため，運営経費の捻出に工夫が必要である。現在は公園でのバザー販売や寄付募集などができないため，カフェやおやつは無料提供している。子供会など地域団体等との連携なども視野に，地域行事としての支援を得やすい方向性を探りたい。

8 今後に向けて

- 中学生によるプロジェクトチームが「広島県こども夢基金」の助成を受けて，始動している。
- これまで来場者だった小学生が企画運営メンバーとして参加してきており，公園の主役である子供たちが，自分たちのあそび場を自分たちで作りだすことに期待している。
- 冒険あそび場ネットワークに参画し，あそび場マップづくりや交流シンポジウムなどを計画中しており，公園活用以外のテーマを探るとともに，プロジェクトとしての自立を促進するサポートを行う。